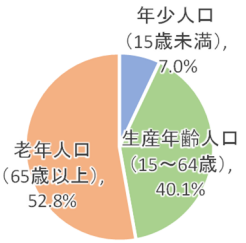
6－04

千　谷（ちだに）

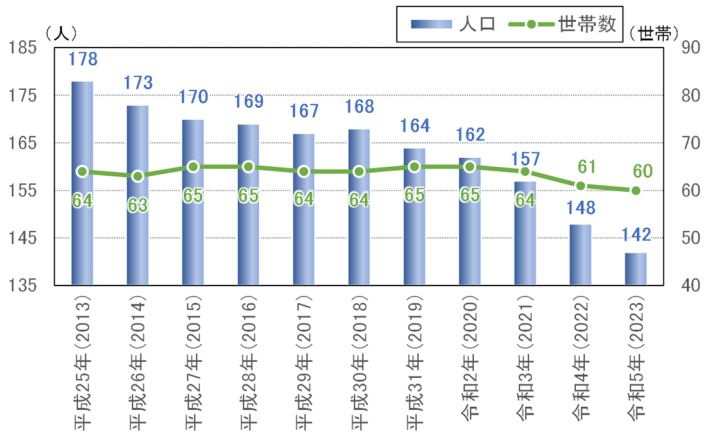
人口・世帯数等（令和５年４月）

人　　口	142 人
世 帯 数	60 世帯
高齢化率	52.8 %

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移（過去10年間）



区域の概要

立　　地　集落の北東に流れる千谷川に沿って細長く家屋が並び、東側には岸田川が北流する。国道９号（山陰道）と県道岸田諸寄線が合流する地点で、岸田川沿いにわずかに田畑が開けるほかは、山に囲まれた標高130mの農山村である。

地名由来　秋葉神社の由緒書によると、村の名の起源を「岸田川には谷（支流）が千あり、その中ほどにあるので千谷と名付けた」とある。「茅（ちがや）の谷」ではないかとも考えられる。（「たじま地名考」日本海新聞）

歴 史 等　近世の千谷村は、天正（てんしょう）11年（1853）因幡国鳥取城主宮部（みやべ）氏領、慶長（けいちょう）6年（1601）同国若桜（わかさ）藩領、慶長10年（1605）旗本宮城（はたもとみやぎ）氏知行（ちぎょう）、寛永（かんえい）20年（1643）幕府領、寛文（かんぶん）8年（1668）豊岡藩領、享保（きょうほう）11年（1726）からは幕府領となった。天保（てんぽう）5年（1834）の『但馬国郷帳（たじまのくにごうちょう）』（天保郷帳）の村高（むらだか）は66石余。因幡国との国境の村として年2回の市が開かれ、山陰道の宿場的な存在であった。

明治22年（1889）八田村の大字となり、昭和29年（1954）からは温泉町の大字となる。明治24年（1891）の戸数76、人口は男210・女198。昭和35年（1960）に蒲生（がもう）トンネルが開通した。

これまで把握している文化財

文化財の件数　68 件　（うち指定等文化財　1 件）

大分類	中分類	小分類	把握件数			指定等
有形文化財	建造物	建築物	1	11	22	0
		石造物	9			0
		工作物・その他の構造物	1			0
	美術工芸品	彫刻	4	11		0
		絵画	0			0
		工芸品	5			0
		書跡・典籍	0			0
		古文書・歴史資料・考古資料	2			0
無形文化財		音楽	6		6	0
		演劇	0			0
		工芸技術	0			0
		その他の無形文化財	0			0
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	6	6	15	0
		祭具	0			0
		民具	0			0
		その他の有形の民俗文化財	0			0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	3	9		1
		民俗技術	0			0
		食文化	1			0
		民間説話・俗信	5			0
		その他の無形の民俗文化財	0			0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	2	21	24	0
		古墳・その他の墓	3			0
		城館跡・寺社跡	1			0
		街道・古道等	3			0
		戦争遺跡	0			0
		その他の遺跡	12			0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	0		0
		海岸・海浜・島嶼	0			0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0			0
		公園・庭園	0			0
		その他の名勝地	0			0
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	3		0
		植物	3			0
		地質鉱物	0			0
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	0			0
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	1			0

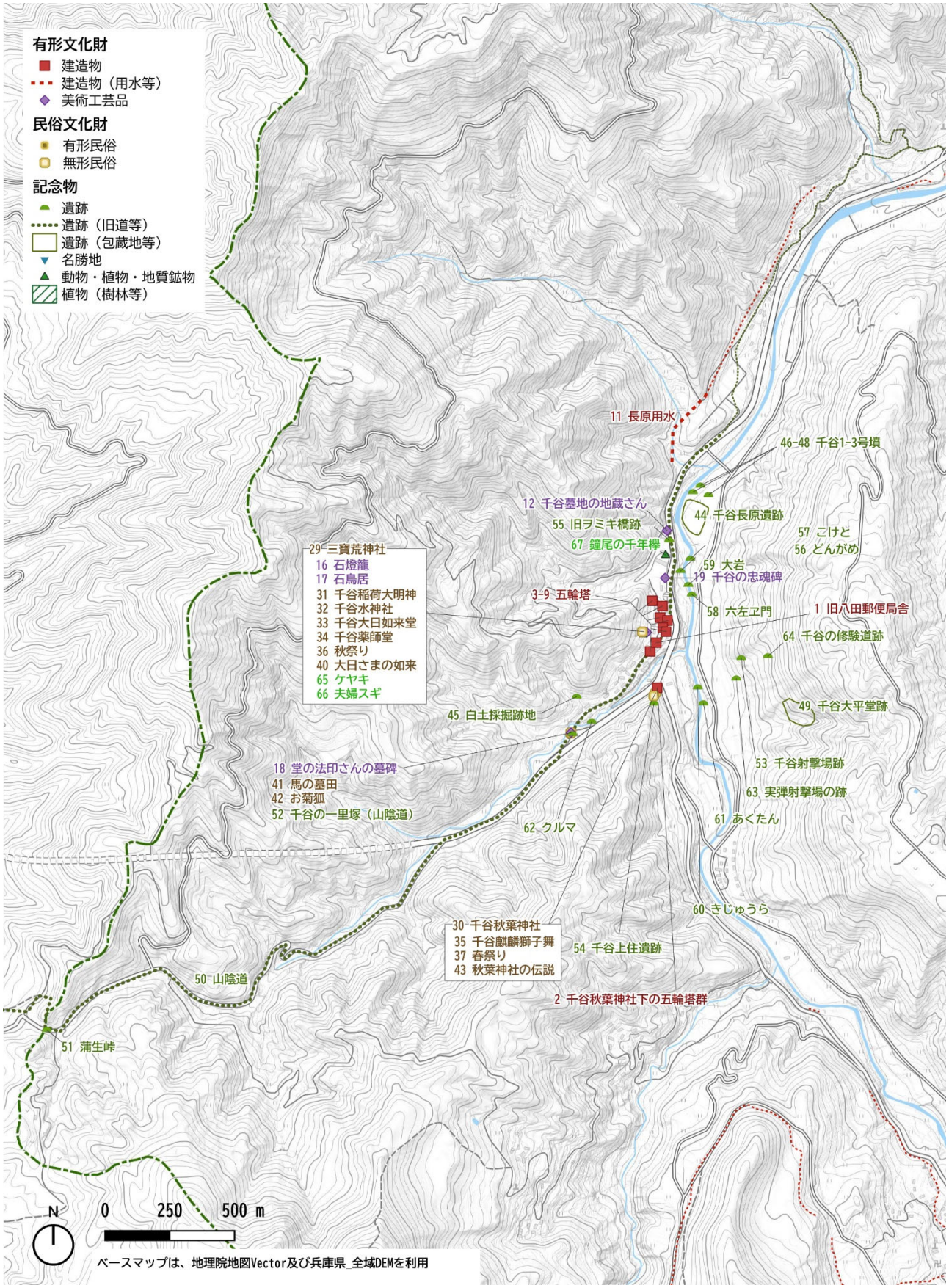
三寶荒神社

千谷麒麟獅子舞（秋葉神社）

旧山陰道と五輪塔

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和５年４月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

6－04 千谷

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	旧八田郵便局舎	昭和 9 年（1934）2 月 11 日に八田郵便局が局舎を新築・移転した時に建てられた建物で、昭和 44 年（1969）2 月 24 日に現在地に局舎を新築・移転するまでの 35 年間、郵便局舎として使われてきた。現在は民家に改築されて使用されている。
石造物	2	千谷秋葉神社下の五輪塔群	千谷村は蒲生峠越の宿場であり、行き倒れ死して祀られた墓石でもある五輪塔が村内に多数ある。秋葉神社下の山すそに安置された五輪塔は、村内で最も時代が古いものと思われる。国道 9 号改修前は県道に近い秋葉神社の下にあったが、道路改修のために現在地に移された。
	3	西脇清隆家裏の五輪塔	詳細は不明。五輪塔に準拠した蒲生峠越えで遭難した人の供養をするための供養塔と思われる。千谷村では多く見られる。民家裏の畑にある。
	4	西脇岩雄家裏の五輪塔	民家の裏にあり、木製の立派な祠の中に五輪塔がある。
	5	西脇明家前の五輪塔	民家手前にあり、囲いも五輪塔も崩されている。大きさはほかの五輪塔よりも小さい。
	6	邑橋俊雄家前の五輪塔	民家の敷地内で道路端にあり、ブロックの囲いの中に高さ 60 ㎝、幅 23 ㎝の五輪塔がある。
	7	西谷實千男家裏の五輪塔	千谷村では多く見られる。民家の裏にあり、ブロックの祠の中に高さ 90 ㎝、幅 23 ㎝の五輪塔がある。
	8	西谷昌樹家前の五輪塔	道路端に面しており、ブロックの祠の中に高さ 90 ㎝、幅 23 ㎝の五輪塔がある。
	9	大麻隆一家下の五輪塔	道路端に面しており、ブロックの祠の中に２つ五輪塔を分割して飾られている。五輪塔の土台から上３段の高さは高さ 45 ㎝、幅 25 ㎝、そこから上の部分は高さ 25 ㎝、幅 17 ㎝。
	10	西谷八左ヱ門の縁の五輪塔	千谷消防車庫の上にあったものを県道拡張に伴い、西谷八左ヱ門家墓地に移転された。
工作物・その他の構造物	11	長原用水	近代に築造された水路。水路延長 1,530m、灌漑面積 5.10ha。取入口は千谷長原、排水口は岸田川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	12	千谷墓地の地蔵さん	八田小学校下の国道横の墓地にある 3 体の石像。高さは左から 103cm、83cm、103cm。左側の像は完全に保存されているが、他は別の丸石を置いたものと思われる。大正 13 年（1924）11 月建立。「大正七年九月十四日、大洪水ノ為地蔵屋敷（村の上ミ）崩壊し、三体アリシ地蔵菩薩堂宇ト共ニ流失シ、内ニ体發見シタル為〇〇〇…此地ニ移転シ大正十三年十一月再興建〇ス…」
	13	千谷薬師堂の阿弥陀三尊立像	神社下の薬師堂の中に 3 体祀られている。高さは左から 79cm、96cm、86cm。3 体とも「ホー」の木で造られているが、一番右の像の右手は杉で造り直されている。塗りは所々しか残っていないが、光背は見事な色彩を保つ。中は両肩でつなぎ、背に 2 本横木がある。
	14	三寶荒神社の大日如来像	ご神体は赤銅（黒色に近い）で、高さ 5 ㎝、幅 1.8 ㎝の極小の像である。材質等は不明。明治 15 年（1882）に元堂屋敷より遷座した。「千谷村沿革誌」には、明治 20 年（1892）大日如来木造購入金を有志より募集した記録があり、厨子内に保管されている勧請書には、旧本尊が紛失したため大日如来をここに勧請したことが記されている。これにより、一時大日如来像が紛失したため、新しい像が新調されたことがうかがえるが、この木造大日如来像と現在の厨子内の大日如来像とが、どのように交換・安置されたかは不明である。

分類	番号	名称	概要
彫刻	15	三寶荒神社の弘法大師像	大日如来像とともに安置されている。大師講の盛んであった昭和 38 年（1963）4 月に 7 名の発願人が推進役となり、喜捨を募って新たに勧請した尊像である。
工芸品	16	三寶荒神社の石燈籠（1914 年建立）	明治 37 年（1914）7 月建立。大日如来像の前にある。邑橋利右ヱ門ら 7 名の寄付者、諸寄石工の栃尾勇吉の名が見られる。
	17	三寶荒神社の石鳥居（1942 年建立）	昭和 17 年（1942）に木造鳥居を建て替えたもの。邑橋久氏が寄付したもので、関係資料（設計書・写真）が残る。高さ 3.8m、幅 5.0m、石柱周り 1.05m（径）約 38 ㎝。
	18	堂の法印さんの墓碑（1857 年建立）	奥田橋上約 30m、木ノ根の入口にある。仏主は、千谷薬師堂境内の池の傍にあった一庵に住み、「堂の法印さん」と呼ばれた高徳の僧と伝えられ、千谷に伝わる伝説「お菊狐」とも関係がある。安政 4 年（1857）建立。
	19	千谷の忠魂碑（1917 年建立）	大正 6 年（1917）建立。鐘尾地区サザイベにあった八田小学校は、大正 7 年（1918）9 月 15 日の大洪水で流出。以前にあった忠魂碑の写真が残る。現在は、旧八田小学校の校庭南側に戦没者忠魂碑が建てられている。
	20	千谷大日如来堂の半鐘	堂内の半鐘は明治 16 年（1883）7 月 7 日に千谷村中の喜捨より新調されたもので、作人は古市村の武村権左ヱ門である。
古文書・歴史資料・考古資料	21	大上家古文書	概要不明
	22	千谷稲荷大明神の棟札	文化 13 年（1816）9 月に天下泰平、国家安全を祈願して、稲荷大明神社一社を建立し、その後明治 16 年（1883）に修理したこと、明治 32（1899）年旧 4 月に二度目の修理をし、その時のお祓いは別当前村正楽寺祢宜千原村の安藤式部がつとめたこと、大工は当所（千谷村）の藤原伝蔵であったこと、世話人は同じく千谷村の五左衛門であったことが記されている。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	23	盆踊り唄（くどき節：京都心中）	※『千谷村史』（平成 7 年、千谷区発行）p291 参照
	24	盆踊り唄（立ち立ちづくし）	※『千谷村史』（平成 7 年、千谷区発行）p292 参照
	25	盆踊り唄（のぞき：ほととぎす）	※『千谷村史』（平成 7 年、千谷区発行）p293 参照
	26	盆踊り唄（数え唄）	※『千谷村史』（平成 7 年、千谷区発行）p293 参照
	27	盆踊り唄（くどき節：鈴木主水）	※『千谷村史』（平成 7 年、千谷区発行）p291 参照
	28	盆踊り唄（浪花節：忠臣蔵）	※『千谷村史』（平成 7 年、千谷区発行）p292 参照

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	29	三寶荒神社	祭神は素戔嗚命。創立年月や由緒は不明であるが、かつては通称「元堂屋敷」と呼ばれる場所付近にあったとされ、宝暦 10 年（1760）以前には現在地に遷座していたことが分かっている。明治 6 年（1873）に神社登録が行われた際、何らかの都合で登録が脱洩していたため、大正 14 年（1925）3 月に改めて登録された。
	30	千谷秋葉神社	創立の由来についてはさまざまな言い伝えが残る。寄付札に明治 12 年（1879）4 月の勧請であることが記されている。社殿は平成 11 年（1999）に再建されている。

分類	番号	名称	概要
信仰の場	31	千谷稲荷大明神	創立等は不明であるが、昭和 56 年（1981）の祠堂再建の際に旧棟札が発見され、文化 13 年（1816）9 月に天下泰平、国家安全を祈願して、稲荷大明神社一社を建立したことなどが記されていたことから、文化年間（1804～1818）若しくはそれ以前の創立である。
	32	千谷水神社	創立は不明であるが、豊作をもたらすとされる水神を祀り、古くから崇められ、現在地に安置されていたとされる。祠堂は石造で、25 ㎝程度の方形、高さ 50 ㎝程度の小さいものである。横に五輪塔が一組合祀されているが、由緒等は不明である。
	33	千谷大日如来堂	現在地に祀られたのは嘉永元年（1848）頃と考えられている。大日如来像、弘法大師像が祀られている。大日如来像には「大日さまの如来」の民間説話が残る。弘法大師像は大師講が盛んであった昭和 38 年（1963）に新たに勧請した尊像を合祀したもの。
	34	千谷薬師堂	堂中央に薬師三尊が安置される。安置の時期等は不明であるが、本殿と一連のものと思われる。堂は約 42 ㎡（間口 7m、奥行き 6m）。当時、回り舞台（床が 4 つに別れて回る）を兼備していた。歌舞伎上演（千谷村の人々の自演）が廃れだした大正末期頃には、回らない舞台に改組された。その後も芝居舞台として、昭和 23 年（1948）頃までは頻繁に使われてきたが、現在は前面に板張り修理（昭和 59 年（1984）2 月）などを施し、往時を偲ぶことは難しくなっている。放置されている「ろくろ」「花道板」「広場に残された石台」などにわずかに名残をとどめる。

■ **民俗文化財／無形の民俗文化財**

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	35	千谷麒麟獅子舞	4 月 17 日の秋葉神社春祭、9 月 15 日の三宝塚市神社秋祭で奉納される。江戸末期に千谷地区で大火があり、集落のほとんどが焼けるという大惨事があった。その後、秋葉神社を火の神として麒麟獅子を奉納した。現在残っている麒麟獅子の中でも、山間に残る珍しいものである。千栄会により伝承されている。 国指定重要無形民俗文化財（「因幡・但馬の麒麟獅子舞」として）
	36	三寶荒神社の秋祭り	9 月 19 日に三寶荒神社で行われる。
	37	千谷秋葉神社の春祭り	4 月第 3 日曜に秋葉神社で行われる。早朝より神社において祭事の安全を祈願し、境内で麒麟獅子舞を奉納してから地区内へ向かい、各家庭の玄関先で家内安全、五穀豊穣などを祈念してまわる。祭りを担うのは「千栄会」。
食文化	38	ジャブ	鶏肉、糸こんにゃく、ごぼう、にんじん、玉ねぎ、豆腐などを鍋で煮た郷土料理。三宝荒神社秋祭りに作って食べていた。
民間説話・俗信	39	とんちの宇一郎さん	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p136 参照
	40	大日さまの如来	※『温泉町郷土読本』（昭和 42 年、温泉町教育研修所調査部編集）p243 参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p38 参照
	41	馬の墓田	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p45 参照 ※『写真で見る千谷村　－今と昔－』（平成 23 年、千谷区編集・発行）p53 参照
	42	お菊狐	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p90 参照
	43	秋葉神社の伝説	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p177 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	44	千谷長原遺跡	その他集落跡。昭和 62 年（1987）の圃場整備に伴う確認調査で、土師器・須恵器多数と柱穴などを検出した。
	45	白土採掘跡地	長谷の入口より 400m谷奥で、大正初期に白土採掘事業が行われていた。白土を採掘した跡は、長谷沿いに数か所見られる。
古墳・その他の墓	46	千谷 1 号墳	古墳時代の古墳。昭和 62 年（1987）の確認調査で発見された 3 基の古墳。いずれも造成工事で埋没した。
	47	千谷 2 号墳	
	48	千谷 3 号墳	
城館跡・寺社跡	49	千谷大平堂跡	中世の寺院跡。広さ 50a ほどの台地に、0.5×0.3mほどの礎石 20 個が散乱している。
街道・古道等	50	山陰道	古代山陰道のルートは、村岡から春来峠を越えて伊角・熊谷を通って井土に出て、その後、岸田川沿いを西へ向かい、蒲生峠を越えて因幡国に入るルートが有力と考えられており、ほぼ現在の国道 9 号に該当する。律令時代の官衙遺跡は井土に集中し、中でも古代山陰道の「面治駅」は竹田の面沼神社付近とされる。
	51	蒲生峠	山陰道の但馬国と因幡国の国境であり、現在の新温泉町と鳥取県岩美郡岩美町をつなぐ峠道。現在は国道 9 号に蒲生トンネルができているが、旧国道はトンネル手前を左手に蒲生峠に登り、県境を越えて鳥取県の蕪島へ下りていた。峠部に切通があるが、おそらく旧国道建設の際に設けられたもので、それ以前は、その上部を通っていたと思われる。また、峠の少し向こうには、以前は大きなお地蔵さんが祀られていたという。狼にまつわる話などのさまざまな民話がつたわる。
	52	千谷の一里塚	堂の法印さんの墓碑付近に一里塚があったとされる。形跡は何も残っていないが、墓碑反対側の畑は、現在通称が地蔵屋敷と呼ばれているため、この場所であった可能性が高いと考えられる。
その他の遺跡	53	千谷射撃場跡	近世の射撃場跡。両側に 3～4mの石垣を積んだ壕が、長さ 10mほど掘ってある。
	54	千谷上住遺跡	古墳の可能性がある丘に古い石造物が建立されている。古墳時代の祭祀遺跡か。
	55	旧ヲミキ橋跡	国道改修前の旧橋の土台の跡が川中に残る。
	56	どんがめ	旧八田小学校下の岸田川の淵の呼び名のひとつ。昭和 60 年（1985）頃まで川遊びをしていた場所。大きな淵で水深約 4m程あり、アユ・ウグイ等の釣り場でもある。潜水してカワマスをとる人もいた。高学年が水泳をしていたが、危険区域指定となり、水泳禁止となった。
	57	こけと	旧八田小学校下の岸田川の淵の呼び名のひとつ。アユ・ウグイ等の釣り場で、高学年がよく水泳をしていた場所。
	58	六左ヱ門	八田郵便局下の岸田川の淵の呼び名のひとつ。昭和 60 年（1985）頃まで川遊びをしていた場所。アユ・ウグイ等の釣り場でもある。
	59	大岩	八田郵便局下の岸田川の淵の呼び名のひとつ。昭和 60 年（1985）頃まで川遊びをしていた場所。低学年がよく水泳をしていた場所。水深約 2m。
	60	きじゅうら	太田橋より 200m上の岸田川の淵の呼び名のひとつ。昭和 60 年（1985）頃まで川遊びをしていた場所。アユ・ウグイ等の釣り場・遊泳場。
	61	あくたん	太田橋より 200m上の岸田川の淵の呼び名のひとつ。昭和 60 年（1985）頃まで川遊びをしていた場所。アユ・ウグイ等の釣り場・遊泳場。
	62	クルマ	奥田橋より約 50m下の千谷川の淵の呼び名のひとつ。昭和 50 年（1975）頃まで、洗濯場であり、川遊びをしていたが、今は淵もなく、様変わりしている。
	63	実弾射撃場の跡	昭和 17 年（1942）9 月、在郷軍人の実弾射撃の実施跡。秋葉神社下より、字大平山裾射的場まで約 250m。石積みの堀が残る。

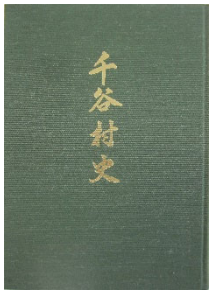
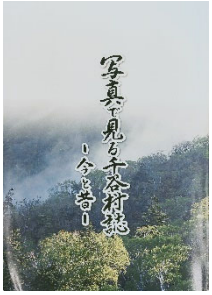
分類	番号	名称	概要
その他の遺跡	64	千谷の修験道跡	実弾射撃場跡の上段約 100m程度の位置にあり、面積約 5 畝歩（150 ㎡）程度。山林内には、建物跡とみられる石垣などが残る。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	65	三寶荒神社のケヤキ	神社境内、本殿の石段右側に位置する。樹齢は不明であるが、同境内にある夫婦スギよりも古い。高さは目測 20m以上。根回り 6mで、太幹は 2 本に分かれている。太根が裏手、水神池を巻く（数本）。
	66	三寶荒神社の夫婦スギ	水神さんの上に位置する夫婦スギ。右側が幹回り 3.0m、左側が幹回り 3.1mで、V 字結合点での幹回りは 5.6m。高さは目測で 15～20m。推定樹齢は 300 年前後。
	67	鐘尾の千年欅	昭和 61 年（1986）に鐘尾薬師堂の境内から掘り出された欅の根株。長い間リフレッシュパークで展示されていたが、令和元年（2019）12 月に八田地区に里帰りし、地区公民館体育館玄関に展示されている。

■ 伝統的建造物群

分類	番号	名称	概要
宿場町・ 城下町・ 農漁村等	68	千谷集落	『但馬ランドスケープ広域計画報告書』では主要な宿場町（駅）の一つとしてあげられている。

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

・『千谷村史』（平成 7 年、千谷区編集・発行）
・『写真で見る千谷村誌　－今と昔－』（平成 23 年 3 月、千谷区編集・発行）